

畜産みやぎ

題 字

宮城県知事 村 井 嘉 浩

発 行 所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号

一般社団法人 宮城県畜産協会

電話 022-298-8473

編 集 発 行 人

佐 野 和 夫

印 刷 所

(株)東北プリント



干支《辰》

も く じ

C O N T E N T S

会長年頭挨拶	2
知事年頭挨拶	3
畜試便り	4
宮城県有種雄牛の「脂肪の質」能力の公表と データ収集について	5-6
生産資材価格高騰に関する畜産経営体への 支援について	6
家畜の病気と向き合う ～子牛のカゼ～	7
第13回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会の 設立について	8
2024年度・2025年度 ミルクキャンペーンキャラクター決定!!	8

令和6年度 アカバネ病予防接種の実施について	9
令和5年度 肉用牛研修会開催のお知らせ	9
衛生便り	10
農業大学校生の抱負	10
馬事畜産振興の活動報告	11
価格安定対策事業の発動状況について	11
賀春	12



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



〈会長年頭挨拶〉



一般社団法人 宮城県畜産協会
会長 佐野 和 夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が第5類の感染症となり、少しずつ日常生活に戻りつつありますが、物価高騰の煽りを受け、インバウンド等による消費回復も期待されたほどの効果は得られませんでした。

さて、畜産情勢としては、依然として配合飼料や生産資材等の価格高騰及び円安の影響は収まる気配がありません。更には記録的な猛暑により死廃事故の多発や受胎率の低下などの被害も見受けられました。

このような状況下において、肉用牛枝肉価格は前年より低調で推移したため、経営安定対策として牛マルキンの交付金が毎月発動されています。加えて子牛の売買価格も低調なことから、黒毛和種では国内初のBSE発生時以来、実に21年ぶりに肉用子牛生産者補給金が交付されました。併せて緊急支援事業としての和子牛支援交付金も交付されたところ です。

酪農経営では、2年連続で乳価が値上げされましたが、子牛価格の低迷や、更なる価格転嫁による消費の減退も危惧されるなど、厳しい状況が続いております。

養豚経営については、代替需要により枝肉相場も高値で推移しておりますが、県内では野生イノシシの豚熱感染が未だに確認されておりますので、十分

な警戒が必要です。

高病原性鳥インフルエンザにおいては、今シーズンはここ数年で最も少ない発生状況です。しかし、昨シーズンに過去最多の1,770万羽余りの鶏が殺処分された影響は大きく、卵価は一時期より回復しましたが現在も高騰が続いておりますし、野鳥での感染が県内でも確認されておりますので、より一層の飼養衛生管理の徹底に努めていただきたいと思います。

一方、昨年7月に開催された第25回全農肉牛枝肉共励会において、宮城県勢が5年連続で名誉賞を受賞する快挙を達成しました。生産者の方々の日頃の努力に対し心より敬意を表します。

また、4年ぶりに全畜種で入場制限なく開催した宮城県総合畜産共進会については、関係機関や生産者等、皆様のご協力により盛会裏に開催できました。改めて衷心より御礼申し上げます。

そして12月には、令和9年に北海道で開催される第13回全国和牛能力共進会へ向けて、宮城県出品対策協議会が設立されました。関係機関、生産者の皆様と一丸となり「全共日本一」に向けた活動を支援して参ります。

このような情勢の中、本協会といたしましては、国や県等関係機関と連携し、生産コストの削減や飼料自給率向上のための各種支援対策をはじめ、これまでどおり経営支援、価格安定対策、家畜衛生対策、家畜改良の諸事業を実施して参りますので、関係機関及び会員の皆様方のさらなるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

今年の干支は辰年、畜産業界にとりましてもまだまだ厳しい状況が続く中、昨年惜しくも夏の甲子園準優勝となりましたが、最後まであきらめず戦った仙台育英ナインや、WBCで見事優勝を果たした侍ジャパンの様に関係者一同チーム一丸となり、英知を結集して、この難局を乗り越えるべく尽力し、昇り龍の様に飛躍の年となりますよう祈念いたしますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

〈知事年頭挨拶〉



宮城県知事 村井 嘉浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症となり、様々なイベントや行事が再開されるなど、3年余りにわたるコロナ禍によって停滞していた県民生活や社会・経済活動が再び動き始めました。また、記録的な暑さの中で開催された全国高等学校野球選手権大会では仙台育英学園高等学校が2年連続決勝進出という快挙を成し遂げ、秋には台湾の大手半導体企業が新たに国内法人を設立し、県内に進出することが決定するなど、明るい話題もありました。

さて、社会情勢が目まぐるしく変化し、本格的な人口減少局面を迎える中、これまで経験したことのない環境の変化を前提とした社会づくりが求められています。こうした状況の中では、地域経済・社会の活力を維持しながら、持続的な発展を促進していくための政策・施策を、積極的に推し進めていくことが重要と考えております。

今年は、「新・宮城の将来ビジョン」による県政運営がスタートして4年目を迎えます。昨年に引き続き、市町村やNPO、企業など多様な主体と連携・協働しながら、復興完了に向けた施策に力を入れるとともに、「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる将来像の実現に向けた取組を着実に推進してまいります。特に、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による「変革みやぎ」の実現に向けて、民

間の力も活用しながら、あらゆる分野でデジタル技術のフル活用を進め、県民サービスの向上や県内産業の活性化等を図ってまいります。中でも、県民向けのDX施策については、デジタル身分証アプリを活用し、利便性の高い県民アプリとしての普及拡大に向け、市町村と一体となって、幅広い分野での活用を図ってまいります。また、喫緊の課題となっている物価高騰に対しては、各種取組を迅速に進めるほか、人口減少への対応については、若者の県内定着や子ども・子育てを社会全体で支える環境整備など、次の世代を育成・応援する取組を重点的に推進いたします。

畜産分野においては、国際情勢の影響により生産資材等の高騰が続いていることから、昨年に引き続き畜産経営体及び酪農経営体への支援を行うとともに、物価高騰により需要が落ち込んでいる食肉、卵や牛乳などの畜産物について、消費者向けキャンペーンや販売会を実施するなどして、消費拡大対策に取り組んでまいります。また、家畜衛生分野においては、近年多発している高病原性鳥インフルエンザや豚熱、昨年韓国で4年ぶりに発生した口蹄疫などの家畜伝染病の発生を予防するため、県内の畜産農場に対して飼養衛生管理基準の遵守の再徹底を指導するとともに、各地域で防疫演習などを実施し、防疫体制を強化してまいります。

今後とも、多様な主体による魅力ある地域づくりを進めるとともに、県民一人一人が幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城を目指して取り組んでまいりますので、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



仙台牛PRキャラクター牛政宗くん

〈畜試便り〉

宮城県基幹種雄牛の「脂肪の質」能力について

宮城県畜産試験場

令和5年8月に宮城県から宮城県基幹種雄牛の「脂肪の質」能力を公表しました。

ここでの「脂肪の質」能力とは脂肪酸組成の遺伝的能力のことを指しています。遺伝的能力の詳細については宮城県畜産課のほうで記事を書いていますので、そちらをご参照ください。今回はより基本なお話です。①脂肪酸組成とはなんなのか、②組成が変わると何が変わるのか、③どうやって測るのか、④測定値について、この4つに分けて説明します。

①脂肪酸組成とは

そもそも脂肪というのは基本的に中性脂肪（トリグリセリド）のことを指しています。この中性脂肪は「グリセロール」というものと「脂肪酸」というものが結合してできています。そのうちの脂肪酸は多種類のものが存在し、どの脂肪酸がグリセロールに結合するかは決まっていません。そして、それぞれの脂肪酸が中性脂肪全体で見て、どれくらいの割合で存在しているかを示すのが、「脂肪酸組成」です。脂肪酸には多種類のものが存在していると説明しましたが、脂肪酸はその「長さ」と「結合の仕方」で分けられて、単結合のみの脂肪酸を「飽和脂肪酸」、二重結合が含まれている脂肪酸を「不飽和脂肪酸」と呼びます（長さについては割愛します）。

②組成が変わると何が変わるのか？

組成の違いにより、脂肪の「溶ける温度」が変わります。不飽和脂肪酸の割合が大きいほど溶ける温度は低くなり、この温度が低くなると、くちどけが良くなり、より柔らかく、よりジューシーに、より風味が良くなるとされています。和牛の場合、MUFA（不飽和脂肪酸の中でもオレイン酸をはじめとした二重結合が1つの脂肪酸「一価不飽和脂肪酸」）が多く含まれており、「脂肪の質」の能力を評価する際はこのMUFAに注目することが多くなっています。

③脂肪酸組成の測定法

主に2つの方法があり、1つは実験室で脂肪を分析する方法、もう1つが近赤外光脂質測定装置を用いて冷蔵庫内で測定する方法です。育種価に使用されているデータは主に後者、つまり脂質測定装置を使って測定したデータです。このデータを元に全国和牛登録協会で育種価を算出しています。

④測定値について

宮城県畜産試験場では、平成23年度から令和5年9月までに6,058頭（外れ値除く）の脂肪酸組成を測定しています。図は令和5年4月から9月までに測定した708頭のデータの平均をグラフにしたものです。基本的に去勢よりも雌の方がオレイン酸及びMUFA割合が高くなる傾向、逆にSFA（飽和脂肪酸）割合は低くなる傾向にあり、今年度の測定値でもその傾向が見て取れます。これら測定値は共進会に出品された枝肉のものがほとんどであり、各共進会の主催JA等にデータを返却しております。

「脂肪の質」能力は今後脂肪交雑のみではなく、脂肪の質の良い和牛肉を生産するための交配に役立てることを目的とし、公表しています。牛肉のおいしさというのは脂肪酸組成のみで決まるものではありませんが、脂肪の質を改良していくことはおいしい牛肉の生産に必要なプロセスであることには間違いはありません。改良を進めるには生産者の皆様の御協力が不可欠ですので、継続して御支援をお願いいたします。

（酪農肉牛部 佐々木 孔亮）

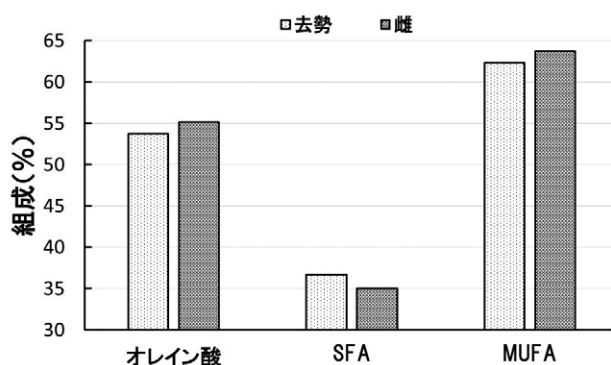


図. 令和5年4月～9月

脂肪酸組成測定値（去勢、雌）平均値

宮城県有種雄牛の「脂肪の質」能力の公表とデータ収集について

宮城県農政部畜産課

1 背景と目的

これまで黒毛和種における改良は、脂肪交雑能力の向上を第一目標に行われてきました。その結果、牛脂肪交雑基準値（BMS No.）は年々上昇し、平成30年度には、「茂福久」産子の平均BMS No.が10.9という驚異的な数値を記録し、日本一になりました。その後も、枝肉重量が毎年更新されるなど、高い産肉能力を有する種雄牛が選抜され、本県の和牛改良を牽引しています。

しかし、過度の脂肪含量は牛肉の風味やうまみの強さを損ねるといった報告もあり、新たな食味に関する形質が着目されております。特に美味しさに関する新たな評価指標のうち、脂肪の質を示すオレイン酸や一価不飽和脂肪酸（MUFA）は、口溶け、風味（香り）、食感にも関与すると言われております。

記憶に新しいと思いますが、令和4年に鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会では、「脂肪の質評価群」が新設されるなど、MUFAの重要性を改めて啓発する契機となり、生産現場での認知が浸透したと考えています。脂肪の質については、飼養管理に加えて、父牛及び母牛の遺伝的能力も影響します。オレイン酸の遺伝率は0.54～0.73という報告があり、遺伝による影響が大きいことが分かります。

そこで、県は全国和牛登録協会宮城県支部の協力のもと、県有種雄牛の育種価の正確度向上と繁殖雌牛の推定育種価判明率向上を目指し、加えて交配種雄牛を選ぶ際、選択肢の1つとして脂肪の質を活用することを狙いとして、県有種雄牛の「脂肪の質」に関する遺伝的能力を計算し公表しました。

2 県有種雄牛の「脂肪の質MUFA」の遺伝的能力

県有種雄牛のMUFAの推定育種価は図1のとおりです。この資料は、令和5年8月の子牛市場から配布している、宮城県畜産試験場が作成したパンフレットにも掲載しています。図中の記号A、B、C表記は、子牛市場名簿でも使用されている育種価と同じ扱いで、上位1/4以上が「A」、平均以上で上位1/4未満が「B」、平均以下が「C」となります。

現在繋養中の種雄牛の中では、「勝美桜1」が最もMUFAの遺伝的能力が高い評価であり、「安百合幸」、「皐月彰」と続きます。図1により、MUFAの遺伝的能力は、種雄牛間で高低差が大きいことが分かりますが、注意すべきことは、MUFAの遺伝的能力が「C」評価となっている種雄牛においても、脂肪交雑や枝肉重量など産肉形質ではほとんどが「A」評価の牛もおります。

現時点では、MUFAの遺伝的能力が判明していない繁殖雌牛が多いので、交配種雄牛を選択する際、サシが入るか、枝肉重量が確保できるか、あるいは体型が改善できるかなど検討される中で、「脂肪の質が向上するには」という視点を加えていただくことを期待しています。

なお、基幹種雄牛の「昭光茂」、「勝茂桜」、「絵里波」については、今後MUFAの遺伝的能力が判明次第公表してまいります。

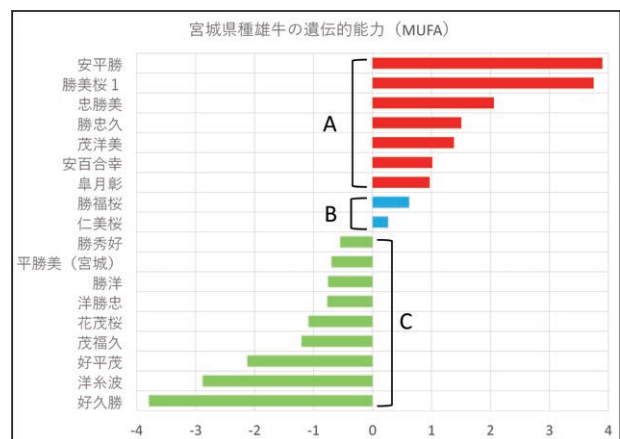


図1. 県有種雄牛のMUFAの推定育種価



図2. 近赤外光食肉脂質測定装置
(枝肉切開面第6肋骨面側筋肉間脂肪で測定)

3 データ収集体制

現在、県では畜産試験場を中心に仙台市中央卸売市場食肉市場で、近赤外光食肉脂質測定装置（図2）を用いて、オレイン酸やMUFAを測定し、データを蓄積しています。このデータは、種雄牛や繁殖雌牛の育種価の推定に活用しております。

4 今後の展望

脂肪の質は、和牛肉の風味や食味などに関わる重要な形質であるので、今後も継続して、枝肉の脂肪酸組成を収集するとともに、遺伝子情報（ゲノミック評価）も取り入れながら、種雄牛や繁殖雌牛の脂肪の質の遺伝的能力を評価し、それを生産現場で活用してまいりたいと考えております。

（生産振興班 渡邊 智）

生産資材価格高騰に関する畜産経営体への支援について

宮城県農政部畜産課

燃料や配合飼料価格等の生産資材の価格は、低下傾向にあるものの、依然として高い水準で推移しており、畜産経営に深刻な影響を及ぼしております。宮城県では令和4年度から配合飼料購入費や酪農経営体の光熱動力費及び学校給食用生乳生産の掛かり増し経費を支援しておりますが、下記のとおり支援を継続することになりましたのでお知らせします。

①畜産農家配合飼料購入費支援事業

○配合飼料価格高騰対策支援

事業内容：令和5年度以降も畜産経営を継続し、飼料価格高騰対策（飼養管理改善計画書）に取り組む畜産経営体へ、配合飼料の価格上昇分のうち、配合飼料価格安定制度で補填されない額の一部を支援します。

補助対象期間：令和5年第3四半期までの支援を令和5年第4四半期まで継続します。

補助単価：補助単価は下記イかロのいずれか低い額

イ 4,300円/トン

ロ 価格高騰分から配合飼料価格安定制度の補填金相当額を差し引いた金額の1/4

○光熱動力費高騰対策支援

事業内容：令和5年度以降も畜産経営を継続し、飼料価格高騰対策（飼養管理改善計画書）に取り組む畜産経営体のうち、酪農経営体の光熱動力費の掛かり増し経費を支援します。

補助対象期間：令和5年10月から令和6年3月まで

助成単価：経産牛1頭あたり2,000円（定額）

②学校給食用牛乳支援事業（令和4年度生乳取引価格引き上げ時に引き続き実施）

令和5年8月に飲用向け生乳取引価格が引き上げられましたが、価格が据え置かれた学校給食用生乳について、酪農経営体の掛かり増し生産費相当額を支援します。

助成単価：学校給食用牛乳向け生産量×10円/kg（定額）

補助対象期間：令和5年8月から令和6年2月まで

（企画管理班 松戸 信明、草地飼料班 伊藤 大河）

家畜の病気と向き合う ～子牛のカゼ～

NOSAI宮城

日頃より家畜診療所の運営に対し、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

新春を迎え、新たな一年が始まりました。

家畜診療センターは、地域の畜産業の生産性の向上、経営安定の一助となれるよう、診療と損害防止を通して、今後も畜産農家の皆さまの支援に努めてまいります。

その中の取り組みのひとつとして、牛の病気や予防法、症状別の危険度（緊急性）などについて、お伝えしてまいります。

牛の体調に異変を見つけたら、適切な対応で経済的損失をできる限り減らしましょう！

今回は、子牛のカゼについて特集します。

子牛のカゼは、鼻水を流している、咳をするといった典型的な症状から、下痢をしたり、ただ元気がなかったりなど、人と同じようにさまざまな症状が見られます。またそのような症状があっても、元気や食欲に問題がないこともあります。

症状をよく観察し、危険度に応じた対処を実施しましょう。



症状		対応
口を開け、肩で息をするような呼吸をし、元気・食欲がない。 (写真1)	高 ↑ 危険度 ↓ 低	緊急を要する場合があります！ 早急に診療を依頼してください！
鼻水・咳が見られ、かつ 元気・食欲が低下してきた。 (写真2)		診療所の受付時間内に診療を 依頼してください。
鼻水・咳は見られるが、 元気・食欲は正常。 (写真3)		保温や換気など環境を整え、 様子を見てください。

時間外に往診依頼をすべきかわからない場合は、まずはお電話でお問い合わせください。

(第二事業部家畜課 長江 達哉)

第13回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会の設立について

全国農業協同組合連合会宮城県本部

全国和牛能力共進会（以下「全共」）は、和牛の能力と斉一性の向上を目的に、和牛生産や改良上の課題をテーマとして掲げ、時代の要求にかなう種牛や肉牛を実証展示するとともに、改良成果を競う場として5年ごとに開催される大会です。第13回全共北海道大会は令和9年8月26日～30日を開催期間とし、種牛の部は音更町のホクレン十勝地区家畜市場、肉牛の部は帯広市にある(株)北海道畜産公社十勝工場にて開催されます。開催テーマは、「魅力発信 新しい力でつなぐ 和牛の未来」に決定し、生産コストが高まる中、飼料利用性や繁殖能力の改良を進め、「新しい力」で和牛を次代につなぎ、地域の系統の魅力についても発信していくという意味が込められています。

本県においては、令和5年12月19日に宮城県、JAグループ、関係機関、和牛改良組合を中心とした地域の改良組織で構成する「第13回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会」を設立しました。オール宮城で取り組む体制がとられることで、関係機関と生産者の目標が共有されることと、指導体制が整備されることが大いなる力になると考えています。この中で、種牛の部では体積に優れ、種牛性に富む産子の保留を進め、宮城らしい牛群構築を目指します。肉牛の部では、課題である脂肪の質対策として、育種価判明率の向上に取り組み、適切な種雄牛の選定、交配推進に取り組みます。加えて次代を担う生産者の育成や、地域の改良組織活動の支援も実施していきます。

令和6年度は、24ヵ月早期肥育試験の実施（4月～）、出品候補牛作出のための指定交配の実施（12月頃～）と対策事業が本格化していきます。宮城大会以来の東日本地区開催の大会を盛り上げ、前回大会を上回る好成績を目指し、事務局一丸となり出品対策を推進していきます。関係皆様の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

（畜産部生産指導課 川名 政路）

2024年度・2025年度ミルクキャンペーンキャラクター決定！！

宮城県牛乳普及協会

11月25日（土）にエル・パーク仙台にて、「ミルクキャンペーンキャラクター選考会」を開催いたしました。

応募総数59名の中から、書類審査を経て選出された10名による最終選考が行われ、栄えある2024年度・2025年度ミルクキャンペーンキャラクターに選ばれたのは、「伊勢 紗也香さん」と「高木 千穂さん」です。

お二人には、来年度から県内のイベントに参加し、消費者の皆さんへ牛乳・乳製品のPRや酪農の理解醸成活動を行っていただくようになります。

今後とも新ミルクレディーと共に、消費者の皆さんの牛乳・乳製品に対する意識向上を図れるよう、なお一層の普及活動を行って参ります。

（宮城県牛乳普及協会 伊藤 絵美）



㊦伊勢 紗也香さん、㊦高木 千穂さん



令和6年度 アカバネ病予防接種の実施について

一般社団法人 宮城県畜産協会

【アカバネ病とは】

アカバネウイルスを保有するウシヌカカ等の吸血によって感染します。

妊娠牛が感染すると胎齢により、流産や胎児の奇形（脊椎や四肢の湾曲）・大脳欠損などの異常産を引き起こします。

平成22年夏から平成23年春頃に、東北地方を中心に大流行し、宮城県でも死・流産や異常子牛が多数確認され、大きな被害となりました。

毎年実施されている「おとり牛」の抗体検査では、令和4年には北海道で陽転が見られ異常産が報告されています。一方、令和5年度においては、県内での陽転は確認されませんでした。これまで、概ね10年周期で流行が見られており注意が必要です。また、気候変動に伴う夏場の気温上昇で、東北地方での流行も懸念されており、ワクチンの接種頭数は減少傾向にあることから、ひとたび流行すると大きな被害が発生する可能性があります。

アカバネ病は、ウイルスによる病気のため、発生してからでは治療法がありません。被害を防ぐには、ワクチン接種が最も効果のある予防法です。

母牛には、毎年ワクチンを接種しましょう！

【アカバネ病予防接種の実施】

- ・接種料金：2,140円
- ・接種時期：概ね4～6月が適正です
- ・接種申込：市町村に申込み願います
(大崎地域の和牛は農業協同組合に申込み願います)

【畜主の皆様へのお願い】

- ・事前に牛の健康観察を行うとともに、接種時には、必ず立会い、保定をお願いします。
- ・分娩間際、分娩直後の牛、体調不良の牛については、獣医師と相談の上で、接種するようにしてください。
- ・立会がない場合は、接種できないこともあります。事故防止のため、ご協力をお願いします。

(家畜衛生課 早坂 翔太)



後肢の奇形を呈した肉用種子牛

令和5年度 肉用牛研修会開催のお知らせ

一般社団法人 宮城県畜産協会

NOSAI宮城との共催により標記研修会を下記のとおり開催する事といたしましたので、近隣生産者等お問い合わせのうえ経営技術スキルアップのため、是非ご参加ください。

記

- ◆ 日 時：令和6年2月27日（火） 午後1時～午後3時30分
- ◆ 場 所：パレットおおさき（大崎生涯学習センター） 多目的ホール
大崎市古川穂波三丁目4番20号 電話 0229-91-8611
※駐車場スペースが限られているため、出来るだけ乗合せでの来場にご協力をお願いします。
- ◆ 講 演：「新生子牛の疾病予防対策について」（仮題）
講師：宮城県農業共済組合 県北家畜診療センター
損防課 課長補佐 黒岩 朋子 氏
- ◆ 参集範囲：繁殖牛飼養農家、畜産関係者
- ◆ お問合せ先：
(一社) 宮城県畜産協会本 所 TEL：022-298-8473
〃 仙南事業所 TEL：0224-52-2523
〃 中央事業所 TEL：0229-34-3304
NOSAI 宮城 第二事業部家畜課 TEL：0229-87-8286



(経営支援課)

〈衛生便り〉

特定家畜伝染病の防疫演習について

宮城県東部家畜保健衛生所

東部家畜保健衛生所が所管する、登米、気仙沼、石巻の各地域では、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生に備えた防疫演習が令和5年10月から12月にかけて延べ5回開催されました。実施された内容は各地域によって異なりますが、大きく3つに分けることができます。一つ目は県合同庁舎内で開催される連絡会議や防疫資材の発注、インシデント対応についてロールプレイング形式で実施する机上演習です。実際の防疫対応では怪我人の発生や器材の不具合等予期しない事案が発生することから、演習の実効性をより高いものとするためインシデント対応を演習に含めて行いました。二つ目は防疫措置のサポートを行う支援センターの設置訓練です。支援センターは多くの従事者が集まるため広い駐車場と作業場が必要なことから、合同庁舎内に設置することも想定されています。登米地域の場合は作業スペースの関係で複数階にまたがった支援センターとなることから、実際に資材を準備し、担当者を配置して、従事者の動線について確認をしました。三つ目は重機で埋却溝を掘削しブルーシートの施設や消毒薬を散布し、汚染物品が入った想定フレコンバッグを埋設する演習です。埋却作業は建設業協会の協力に負う部分が大きく、防疫服、ゴーグルを着用しての重機操作、処分家畜の入ったフレコンバッグの取扱い等、普段の業務では経験しない内容であることから実際の作業をトレースする形で訓練し効果の高い演習になりました。本県はここ数年で豚熱も高病原性鳥インフルエンザの発生も経験し多くの県職員で防疫作業に当たってきましたが、なお演習を行うことにより多くの気づきや改善点が描出されることから、今後も継続して防疫演習を実施することが重要と考えています。(防疫班 高田 直和)



〈農業大学校生の抱負〉

畜産とあゆむ

宮城県農業大学校 畜産学部 2学年 鈴木 貴元



私は、宮城県農業大学校畜産学部乳牛専攻の鈴木貴元（たかゆき）です。私の実家では、経産牛約140頭（うち搾乳牛約100頭）、育成牛約30頭、哺育牛約20頭を飼育しています。幼い頃から家の手伝いをし、将来、私も牛飼いになりたいと思い小牛田農林高等学校に入学しました。

最初の1年は周りとなじめるか心配でしたが徐々に慣れ、友達と楽しく高校生活を送りました。2年生では和牛甲子園に出品するため、肥育牛の「ふくふく」を飼育し始めました。少しでも「ふくふく」の手入れが出来る様、朝早く起床し家を出て、高校に到着したらすぐに牛舎に行きました。どの肥育牛よりも輝いてほしいと思い、毎日ハゲがけなどの作業をしていました。3年生の時に和牛甲子園に「ふくふく」を出品しました。一生懸命飼育してきたので良い結果になってほしいと思っていました。

上位入賞はできませんでしたが、格付はA5で仙台牛に認定され、良い結果を残せたのでとても嬉しかったです。友達や「ふくふく」との思い出が多くでき、充実した高校生活を送ることができました。

小牛田農林高校で学んだことを生かし、畜産についてより深く勉強し、資格を取得したいと考え、宮城県農業大学校に入学しました。大学校では畜産学部で経験を積み、将来、酪農経営に役立てていきたいと思い勉強に励みました。1年生では先進農業体験学習で石巻市の酪農家さんで約1か月間研修しました。研修は大変でしたが、作業をとおして多くのことを学ぶことができました。2年生では、実家の乳牛を自分で削蹄したいと思い、削蹄の授業に力をいれました。いざ挑戦してみるとなかなか思うようにできないことがあったり、蹄の名称や疾病など覚えることが多かったりととても苦戦しました。今回、青森県で開催された2級牛削蹄師の認定試験は、練習などの事前準備を沢山したため、力を出し切ることができました。

私は大学校卒業後、自宅に就農する前にもっと経験を積みたいと考え、宮城県畜産試験場に就職したいと思っています。今後も酪農知識の習得など努力したいと思っています。

馬事畜産振興の活動報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

地方競馬の普及啓発を図ることを目的に、馬事畜産振興推進事業（地方競馬全国協会委託）において、以下のとおり普及・啓発活動を行いました。

馬事畜産振興現地視察検討会

令和5年12月5日（火）、岩手競馬水沢競馬場において、現地視察検討会を開催しました。

JR仙台駅東口より貸切バスにて出発し、車中にて地方競馬の概況説明を行いました。現地視察では、指定席にて第2レースから第10レースを観戦しました。小春日和の中、雄大な景色を展望するスタンドから、和やかな雰囲気で見物客が競馬を観戦しました。目の前を疾走する競走馬の迫力を楽しんだ参加者からは「久々に競馬をみて楽しかった」等の声をいただき、有意義な検討会となりました。

事務局：（一社）宮城県畜産協会



価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人 宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

販 売 月	肉専用種（宮城県）	交 雑 種（全国）	乳 用 種（全国）
令和5年10月（概算払）	(129,959.3円)	(44,598.8円)	—

賀 春

宮城県農業協同組合中央会長	佐野和夫
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	都築祐一
宮城県農業共済組合長	品川忠夫
みやぎ農業振興公社理事長	江畑正徳
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	伊藤一成
宮城県酪農農業協同組合代表理事組合長	渡邊博
宮城県家畜商協同組合理事長	渡邊通
全国和牛登録協会宮城県支部長	郷内弘幸
宮城県ホルスタイン協会長	半澤善幸
宮城県ホルスタイン改良同志会長	千葉義文
宮城県家畜人工授精師協会長	高橋清治
宮城県養豚振興協会長	石川輝芳
宮城県畜産協会長	佐野和夫

